

まなみちゃん自身も元気が出てきたようです。「朝、めそめそしなくなりました」という話を母親がしてくれました。父親の誘いに、一緒に散歩に出るようになってきたそうです。

まなみ：子馬のびょうき、もうすぐ、なおるかもしれない。少しだけ、かけっこのれんしゅうもはじめたんだよ。



いきいきと話すまなみちゃんの横顔を見ながら、さと子先生は、自分の思いをあまり押しつけず、自由に表現させることで、まなみちゃんの気持ちをもっと知りたいと思いました。

まなみちゃんが学校を休み始めて2週間が過ぎました。

まなみ：……先生、子馬のびょうき、もうすぐなおるよ。そしたら……

担任：そしたら……？

まなみ：……まなみも学校に行けるかな。

担任：そうね……まなみちゃん……、学校に行きづらい理由、ある？

まなみ：ううん。まなみも、子馬と同じ。もう、むなしくないよ。

まなみちゃんは「もう少し、この子のこと元気にしてあげなくちゃ」と言って、色鉛筆をまぶしい笑顔で走らせています。

まなみ：あのね、学校に行けたらね……

担任：行けたら……？

まなみ：がんばらなくてもいいよね。

まなみちゃんもお祈りをしていたんだ。がんばる、よい子のまなみちゃんも、病気の子馬だったんだ。そのむなしい気持ちをまなみちゃんは知ってほしかったんだ。

さと子先生は、黙ってうなずきました。

相談面接を通して、児童生徒の心を理解するために

- 児童生徒の心を理解することはその子供と同じ舞台に立つということです。子供たちは、自分たちと同じ目の高さで感じ、考えてくれる人が好きです。そんな人に心を開きます。
わたしたちは、その子と飾らず、素直に自分を語り合える関係にありたいと思います。
- 児童生徒の心を理解することは時間がかかることです。不安の中にいる子供たちの多くは、自分自身の心がわからないのです。ゆっくりと自分の心を見つめる時間を必要としているのです。
わたしたちは、その子が必要としている時間を待ってあげたいと思います。
- 児童生徒の心を理解することはその子供を信じるということです。子供たちは皆秘めた力と可能性をもっています。それは、一時的にエネルギーが低くなっている子供たちも同じです。
わたしたちは、どんなときもその子の力と可能性を信じて見守ってあげたいと思います。